

平成 29 年度 認定こども園やまなみ自己評価結果報告書

1. 当園の教育・保育の目標（基本理念・保育方針）

基本理念

- ・思いやりのある心（園はこども達にとって、生まれて初めて知る社会である。互いの主義主張を示しながらも、共同生活する上でのルールを守り、思いやりのある心を持ちながら、協調性を身に付けて立派な社会人となっていく）
- ・健康な身体（何かをしようと言う意欲や、取り組むことについては気力と体力が一致して初めて、やり遂げていくことが出来る。何より健康な身体が大切である）
- ・自主性のある行動（ケガや事故から身を守り、とっさの状況判断が出来ることは生きていく上で必要不可欠のものである。自然とのふれ合いや、園での生活の中で基本的な生活習慣を身につけ、自主性のある行動がとれる逞しさを育てるよう養育する）

教育・保育方針

- ・生（命）への畏敬の念を持ち、生あるものすべてのものを大切にすることを育てます。
- ・集団生活の中から、ルールと協調性が身につくように養育します。
- ・集団生活における個性を尊重し、元気とやる気を育てます。
- ・食事（食物）の重要性を知らせ、健全な心身の発達の育ちを助けます。
- ・人・地域・自然とふれあい、様々な体験を通し、自ら考え行動できる力を伸ばします。
- ・伝承行事や遊びを通し、たくましく生きる力と工夫の習得を目指します。

2. 重点的に取り組んだ評価目標

- ・基本的な生活習慣を獲得していく中で、発達に応じた意欲をしっかりと受け止める
- ・ありのままの自分を受け止めてもらえる安心・信頼感の中で人との関係性に楽しみを感じ、生きる意欲の土台を育む

3. 評価目標の取り組み状況

保育教諭の資質向上	<p>専門性を深める為の研修に参加・外部講師からのアドバイス（教育アドバイザー） 専門書等を読むことでの、自己研鑽 専門リーダー会議立ち上げ（乳児・幼児・食育・障害・保護者・保健） （株）ポラリス研修会（新任若手 年3回・保育リーダーマネジメント 年3回・キャンパス研修 年3回）</p>
教育・保育内容の共通理解	<p>新要領・指針の勉強会の中で、今までの教育・保育を見直し計画の立て直しをする。 新要領・指針の研修に行った職員が講師となり、全職員参加で研修会実施</p>
発達に応じた意欲に対する適切な対応	<p>一人ひとりの子どもの発達をその子どもの状況に合わせて援助する。遊びや生活を通しての学び。主役は子どもを意識する。</p> <p>0歳児・・・生理的要求の充実を満たし愛着関係が形成できるように関わる。</p> <p>1～2歳児・・・基本的な生活リズムを形成し、温かなやり取りによる心の安定に努める。</p> <p>3歳児・・・生活に必要な習慣が身につく。友達や担任と遊ぶ中で自分の気持ちを言葉にして伝える</p> <p>4歳児・・・いろいろな活動に取り組み、生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 友達と協力する楽しさを体験する中で、思いやりや助け合いの気持ちを深めていく。</p> <p>5歳児・・・決まりや時間を守る。思いやりの気持ちを持つ。体験をする。（芋ほり→苗を植え収穫する・餅つき→もち米を洗い、ついて丸める。）</p> <p>見える化・・・時計・階段に数字</p> <p>ケース検討会 気になる子どもについて、話し合いをする。対応策を実践できるように準備する。</p>

保護者に対する支援 地域子育て支援	子どもの喜びを共有（連絡ノートの活用・保育参観・個人面談・行事への参加） 子育てに関する相談・援助 情報提供（園選び等） 園だよりに、わらべうた動画バーコード記載（未満児クラス） 成長過程をクラス前掲示板に月2回掲示する。
健康及び安全	健康 <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣を身に付ける ・健康診断の実施（内科・視力スクリーニング・歯科・検尿1回） 安全 <ul style="list-style-type: none"> ・日常から保育者の指示に耳を傾け緊急の場合は慌てずに行動する。 ・避難訓練（火災12回 地震6回・交通安全教室1回・不審者1回・AED1回）

4. 認定こども園の総合的な評価結果

認定こども園に移行し、一人ひとりの子どもを乳児期から幼児期へと長い目で見守っていくことに努め、多様な子ども同士が生活する中で、互いに刺激し合いながら育ち合っていく為の活動を計画していった。

3令改訂を理解して、これまで丁寧に積み重ねてきた保育や指導を見直した。

5. 今後の課題

保育内容の充実	認定こども園としての役割を理解して、教育・保育の保障をする。 子ども一人ひとりの発達のパースを守って、子どもの立場に立ちゆとりある関わりを持つこと、生活体験を保育の現場で保障していくことを目指す。 乳児保育・・・0歳児 生理的要求を満たし生活リズムをつかむ 1歳児…動範囲を広げ探索活動を盛んにする 2歳児象徴機能や想像力を広げながら集団活動に参加する 幼児保育・・・3歳児…身近な仲間や自然等の環境と積極的に関り、意欲を持って活動する 4歳児…信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする 5歳児…集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる わらべうた・・・0歳児～2歳児は、伝承文化であるわらべうたを保育の中に取り入れていく。 評価・反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長の為の保育を目指す
保護者への支援 子育て支援の取り組み	保護者に対して保育内容理解を丁寧に行い、子ども達の育ちへの共同を進めていく。 子育ての楽しさ・保護者としての苦しみを喜びに感じてもらえるような援助、子どもとの遊び方を知らせる。（保育参観・懇談会等） ・利用者アンケート調査を行った。アンケートから分析できる保護者の思いや、園への要望は、認定こども園教育を振り返る貴重な意見であり、今後の保育・教育に活かしていき、調査報告をクラス掲示板に掲示する。 ・園児と保護者が食育の大切さを実感できるよう、収穫の様子を写真で掲示したり、収穫した野菜を持ち帰ってもらうなど食への関心へつなげる。
小学校への連携	年長児や保護者が安心し、期待を持って進学出来るような取り組みを行う。（地域の小学校の行事や見学会に参加する） 気になる子の引継ぎを密にする。
食生活・食育	食材は安全で良いものを選ぶ 離乳食は中期・後期・完了期の3段階で進める おやつは手づくりおやつをこころがける

<p>保健・衛生</p>	<p>アレルギー除去食・代替え食を実施する 子どもたちの生活につながる食育を全園で取り組む（給食や5歳児の米作り、4歳児のかぼちゃ栽培、3歳児のさつまいも植えなどの野菜栽培や、収穫した野菜を給食で提供する） 献立表（乳児・幼児）・給食だより毎月発行していく</p> <p>園児健康診断…全園児健診年2回（4・9月） 歯科検診…6月 検尿 1回 視力…スクーリング 4月5歳、9月4歳・3歳 げんきっこだより…月1回発行 職員健康診断…年1回</p>
<p>職員育成・研修計画</p>	<p>園内研修の計画を作成し取り組む。 危機管理・安全対策・個人情報などの研修にも取り組む。 関係機関の研修参加をする。 研修個人計画を策定する。 他園との交流、見学などを実施して視野を広げる。</p>
<p>働き方改善への取り組み</p>	<p>可能な限り日中にクラス会議等をもてるようにし、会議での超勤は減っている。 個々の就労状況や意識を職員間で共有していく機会を増やし、働き続けていくためのやる気の向上を目指す。</p>
<p>広報活動</p>	<p>社会情勢では情報の保護については保護者も敏感になっているが、保育が閉鎖的にならない様園の情報についてはオープンに発信するようにし、保護者・職員の情報共有に特に力を入れるようにする。</p>
<p>教育環境整備</p>	<p>遊具などに危険個所がないか、定期的に点検を行っていく。 子どもが安心して生活できる環境を考える。</p>